



企業インタビュー

大阪工業大学建築学科 非常勤講師 高武隆司様



キャリアデザイン ～夢を追い続けて～

大学院を卒業後、建築設計事務所、大手信託銀行へと転職し、現在は阪急阪神ホールディングスグループに勤務の傍ら2年前から大阪工業大学でも教鞭をとる高武隆司さん。憧れの職場を次々に転職しながら、キャリアアップする華やかさとは裏腹に、見えないところで重ねた努力は、なかなか真似のできるものではありません。働くうえで大切にしてきたこと、これまでの勝機はどんなところにあったのか伺ってきました。

何がしたいかわからなくなったら

近年、入社3年以内の離職率が全体の3割という統計が厚労省から出されている。「仕事が楽しくない」「やりたかったことと違う」というのが理由の多くだ。大学でキャリアデザインを担当する高武先生が学生に最初にする質問は「小学生の頃、将来なりたかった職業は何？」なのだという。

こんな話をしてくれた。就活で悩んでいた女子学生、何がしたいのかわからないという。「何をしているときが一番楽しいの？」と聞くと「漫画を描いているとき」。好きなことは仕事にできないと思い込んでいる学生に「世の中のCMを見てごらん。車やスマホゲームが主流でしょ。キミの描くイラストはそこでは仕事にならないのかな？」

好きなことでキャリアを描く

実は、高武先生のキャリア論の原点はここにある。一級建築士として建築設計の会社に入社、その後銀行、電鉄と一見分野の違う会社に転職したのも、自分が考える「仕事の夢」を叶えるためだった。好きなことを「建築」の世界を通して実現する。例えば食べるのが好きな人なら「レストランの設計」、サッカー選手になりたかったなら「サッカースタジアムの設計」という形で実現できるかもしれない。

この女子学生も、そんな「好きなこと」という言葉が心に刺さったのだろう。その後、自分のやりたいことが見つかり、今は社会人として元気に働いているらしい。

自分をプロデュースする

キャリアデザインで大切なのは、まず「自分をプロデュース」することだという。入社後3年間で「準備期間としていかに有効に頑張るか」が大切だと高武先生は話す。どんな仕事についても、最初から自分の意見が通ったり、好きなことができる会社はない。人が嫌がる仕事を率先したり、どんどん資格をとって自分の領域を拓げていくのもいい。とにかく3年間はがんばっていれば、そのうち自分のやりたいこともみつかるだろうし、社会

人としての基礎力もついてくる。当然まわりからの応援も得られやすくなる。

また高武先生が新入社員のときにやっていた効果的だったのは、ロールモデルとなる上司をみつけてその人の行動を観察すること。出勤時間、情報収集方法、愛読書など。「その人みたいになりたければ、習うより慣れろ!! 慣れるより真似ろ!!」

仕事を創る

ときには転職となるような「悔しい」体験もあったという。結局、そのことがきっかけになって、「仕事は創る」ものだということに気づく。建築設計の専門的なスキルだけでは競争力に欠けることを知り、建築を事業の一環としてとらえ、金融や事業計画についても詳しくならなければと、信託銀行に転職する。目指すべき目標ができると、さらに資格をとって知的武装していったという。不動産法規など所有する公的資格は12以上にのぼる。

エネルギーの源

話を聞くうち、高武先生のエネルギーの源は何なのだろうと思った。「自信がないからですよ」それは意外な答えだった。これまで仕事で天才的な人を何人も見てきたから、同じことをしていたら勝てないのがわかっていた。だから人知れずがんばった。そうすると、自分が磨いてきた営業センスや金融、不動産の知識を組合せ、トータルな提案ができることがだんだん楽しくなってきた。新たなビジネスモデルを創るのが好きで、いつも「オンリーワン」を目指していた。

嫌がる仕事に勝機あり

人が嫌がる仕事には勝機があるという。例えば設計やデザインをする人間が本来やりたがらない法規の仕事なども引き受けるうち、各地の条例など貴重な情報が自分のまわり集まるようになった。仕事をする上でのポリシーは楽しいことをやるだがイヤなことでもどうやって楽しくするか。そんなちょっとした工夫が次々と仕事の幅を拡げてくれたという。

夢を追い続けて

AIやロボットの進化によって10~20年後には今ある半数近くの職業がなくなるかもしれないといわれる。これからの夢について聞いてみた。

60歳位になると仕事の目的はお金ではなくなってくる。自分が面白いと思うか、人の役に立っているか。そういう視点で働いている。大学での指導もそうで、若い学生には何かを「伝承」していきたい。例えば、AIからあなたにはこの仕事が向いていますと提案されて、それを「納得」して受け入れられるだろうか。人間には感情があるから、「理解」はできても気持ちとはリンクしないだろう。

キャリア指導は自分探しのサポートだと感じている。まだまだ夢の途上にいる。



インタビューを終えて

きっと大学でも学生から人気があるのでしょう。会社では「社長賞」をとるなど輝かしい経歴の持ち主ですが、お会いして話をしていると、相手を緊張させず、楽しくお話くださる方です。それがまたファンを作る秘訣なのかもしれません。